

遠 13  
2378  
1801

一之卷

長くと敷糸は短く切れと依估地よりの詞の鶴と鳥との對句に違  
 秋夜の千夜を一夜に欲張の逢夜の短きを悲むあり苦鬼十年  
 と歎るい年季の長さを秋の宜哉長えと思ふ方の短く長短心  
 依作者獨小限秘と近頃合巻の流行も長く秘巻を年々初編  
 詞編と相續も草環のいと長き此山本の詠の色場たる茶利  
 色愁歎怪言を文の長物語を編と勸ま否といふを岩手山乃  
 のら躑躅餅挿る趣向の苦さ無術時の神々佛國の唐山水滸傳  
 中三國志書竭る其後への著目是をらと彼劉向舌列女傳を  
 名の返仮し乍麼生めん腹は本来無一物と俗聽とあはしる

文政十二己丑春發販 墨壘川亭雪磨作



愛甲の家臣  
浅谷尾右衛門

よき包

大磯  
三村屋  
梅君  
吉野  
人呼ぶ  
三吉と



進上

成存

雪の下の町人  
津國屋分左衛門

打諱  
二朱判吉兵衛

目録





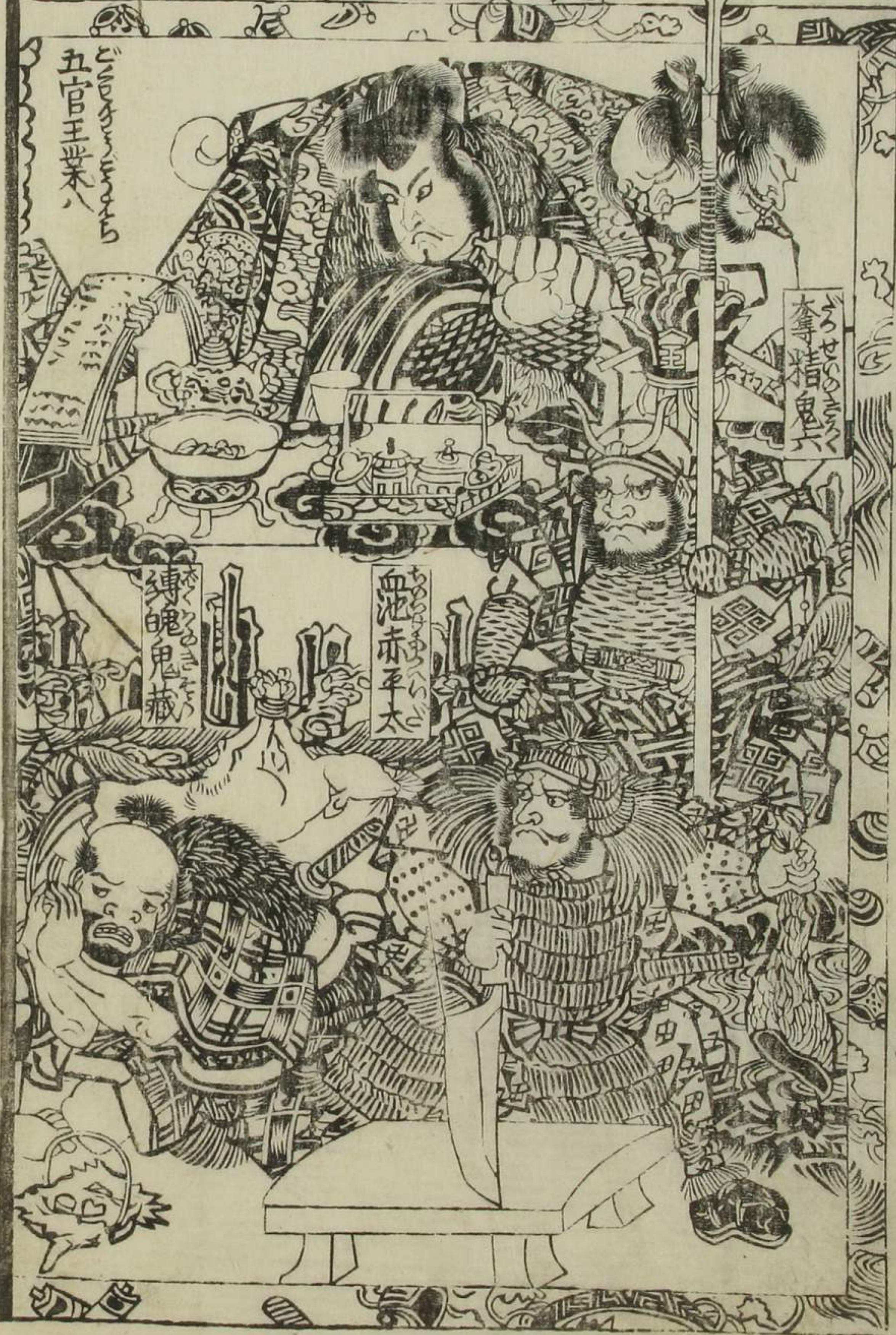
大江紅蓮の  
水九郎

大守  
子九郎

弁慶  
左門  
女房

金時  
花井  
孫  
鬼八  
奪魂  
預吉  
金平の

山賊  
首領  
地獄  
左門



五右衛門

奪精鬼

縛魂鬼

血池赤平太

女信初編

二



大磯局女郎  
桐屋金大夫

墨川亭

琵琶の  
大磯新屋  
梅女世帯  
志加貞崎  
声色

新屋彦物梅女郎  
吉野これと吉と

高圓  
大磯新町  
難波



大磯局  
傾城立花  
大磯新屋  
散茶帳

大磯三村屋  
遊君子持  
揚巻

大磯局

四





ついでに  
月をうらみ  
せははるる日  
あまのこを  
ひきつるひ  
こらあて

あまのこ  
ひきつるひ  
こらあて  
よりの男  
あられらる

左の上の  
あまのこ  
ひきつるひ  
こらあて  
よりの男  
あられらる

あまのこ  
ひきつるひ  
こらあて  
よりの男  
あられらる



あまのこ  
ひきつるひ  
こらあて  
よりの男  
あられらる

あまのこ  
ひきつるひ  
こらあて

あまのこ  
ひきつるひ  
こらあて  
よりの男  
あられらる

あまのこ  
ひきつるひ  
こらあて  
よりの男  
あられらる































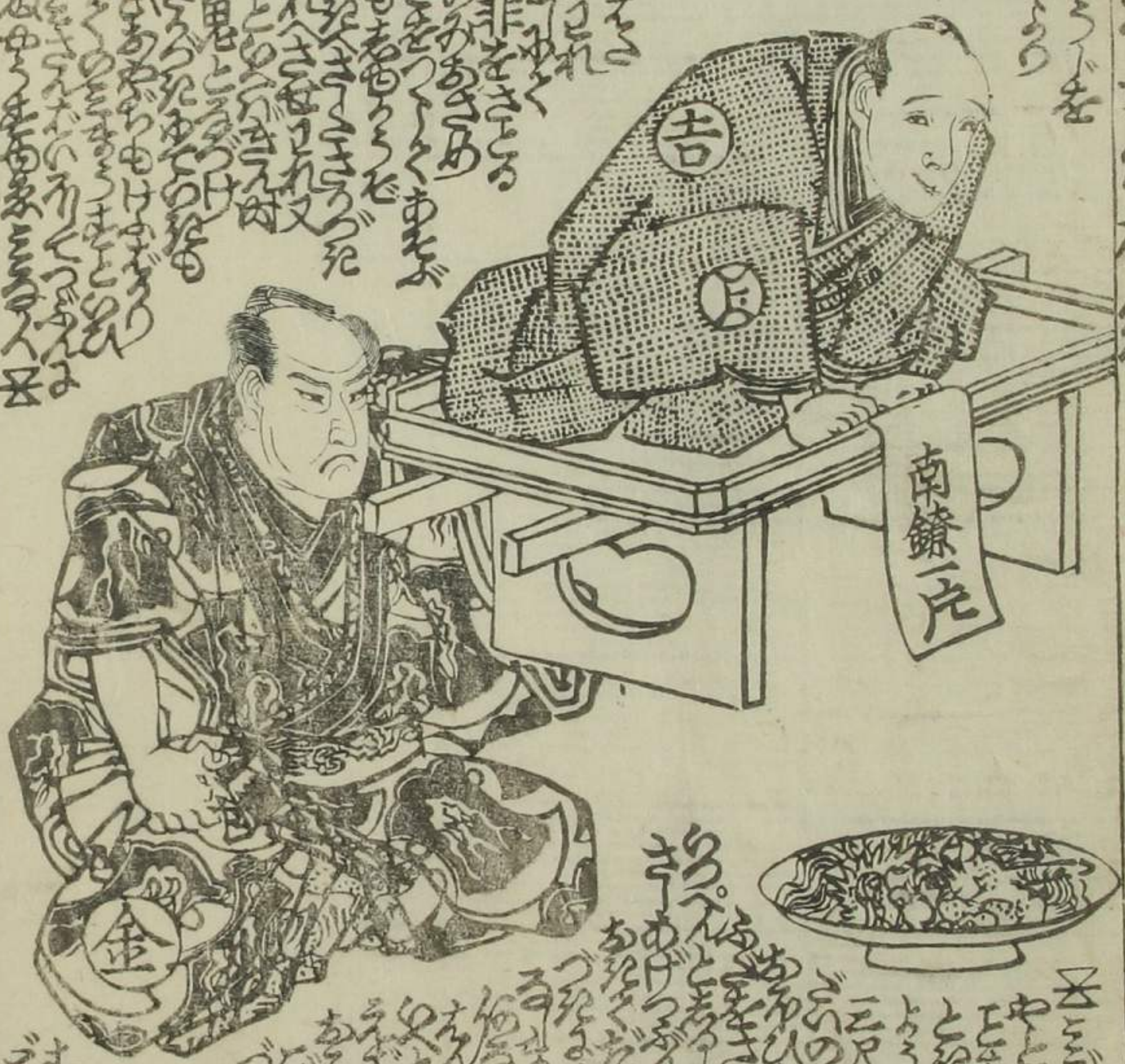


雪麿 さきく 國貞 あぐく



山本 榮久堂

雪麿の事... 國貞の事... あぐくの事... (Vertical text columns describing the characters and their roles)



雪麿の事... 國貞の事... あぐくの事... (Vertical text columns continuing the narrative or commentary)









せうそれとやうにわが国の...  
あつてゐるものもあるが...  
あつてゐるものもあるが...  
あつてゐるものもあるが...  
あつてゐるものもあるが...



あつてゐるものもあるが...  
あつてゐるものもあるが...  
あつてゐるものもあるが...  
あつてゐるものもあるが...  
あつてゐるものもあるが...

津文の切取

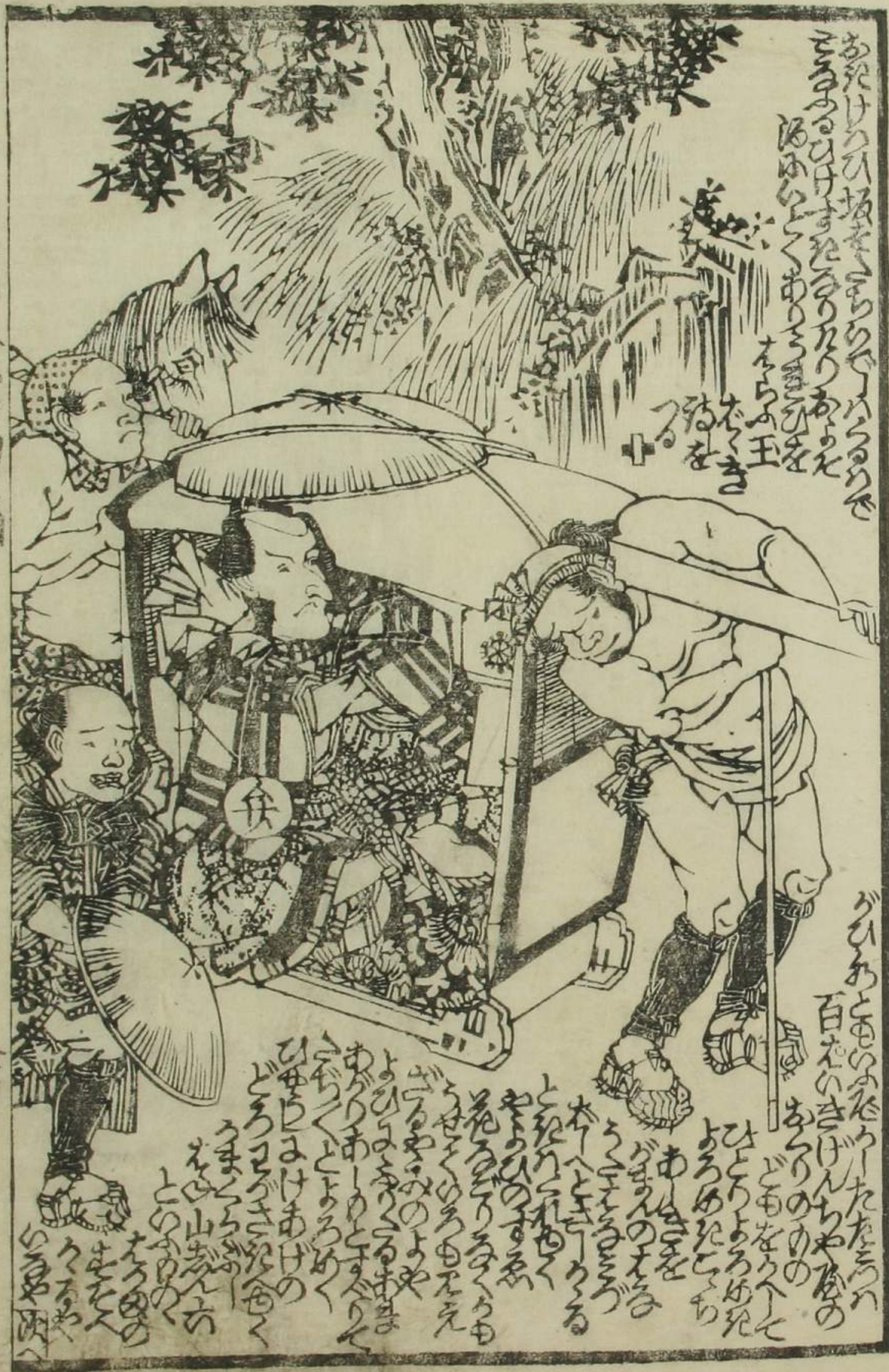


あつてゐるものもあるが...  
あつてゐるものもあるが...  
あつてゐるものもあるが...  
あつてゐるものもあるが...  
あつてゐるものもあるが...



あつてゐるものもあるが...  
あつてゐるものもあるが...  
あつてゐるものもあるが...  
あつてゐるものもあるが...  
あつてゐるものもあるが...

浅尾の切取



あはけりひ坂をさりたりやうらるるを  
 ともひけすたるりなりあはえ  
 湯ふらとくありさるるを  
 たらふ玉  
 たるき  
 たるを

がひあともゆたうたたるの  
 百たのきけんちやたの  
 ありのののの  
 どもをくへて  
 ひよりよらゆた  
 よらゆたごち  
 あはえを  
 がまんのたを  
 うごさるる  
 本へとまらるる  
 とたれられぬ  
 せりのすま  
 花るるりるくち  
 うせのりもをえ  
 びるわののよや  
 よひりるるるま  
 ありありとま  
 ちくくとまらぬ  
 ひまはけあけの  
 ところのさるる  
 うまらるる  
 の山をえあ  
 とのあゆめ  
 たるの  
 たるを  
 たるを  
 たるを

しつたあひのしつ

しつ



あはけりひ坂をさりたりやうらるるを  
 ともひけすたるりなりあはえ  
 湯ふらとくありさるるを  
 たらふ玉  
 たるき  
 たるを

がひあともゆたうたたるの  
 百たのきけんちやたの  
 ありのののの  
 どもをくへて  
 ひよりよらゆた  
 よらゆたごち  
 あはえを  
 がまんのたを  
 うごさるる  
 本へとまらるる  
 とたれられぬ  
 せりのすま  
 花るるりるくち  
 うせのりもをえ  
 びるわののよや  
 よひりるるるま  
 ありありとま  
 ちくくとまらぬ  
 ひまはけあけの  
 ところのさるる  
 うまらるる  
 の山をえあ  
 とのあゆめ  
 たるの  
 たるを  
 たるを  
 たるを

しつたあひのしつ

しつ





「さる松たらしり  
をくま刀をいなり  
どうきりあをを  
ころまゆゆるく」  
あつらひ扇がわろ  
べんけい他をあら



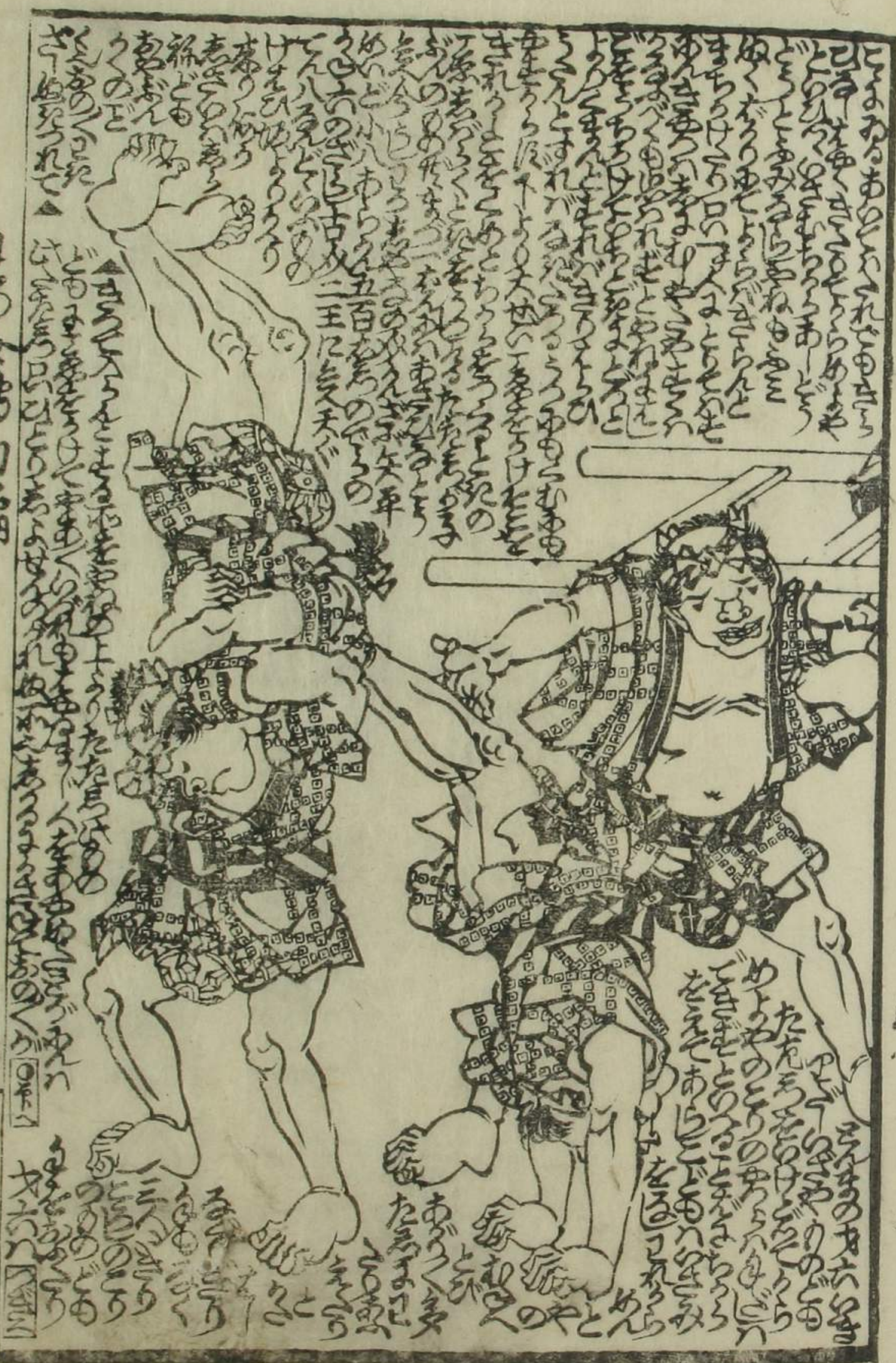
「さる松たらしり  
をくま刀をいなり  
どうきりあをを  
ころまゆゆるく」  
あつらひ扇がわろ  
べんけい他をあら  
おつらひ扇がわろ  
べんけい他をあら  
おつらひ扇がわろ  
べんけい他をあら

「さる松たらしり  
をくま刀をいなり  
どうきりあをを  
ころまゆゆるく」  
あつらひ扇がわろ  
べんけい他をあら  
おつらひ扇がわろ  
べんけい他をあら  
おつらひ扇がわろ  
べんけい他をあら

「さる松たらしり  
をくま刀をいなり  
どうきりあをを  
ころまゆゆるく」  
あつらひ扇がわろ  
べんけい他をあら  
おつらひ扇がわろ  
べんけい他をあら  
おつらひ扇がわろ  
べんけい他をあら

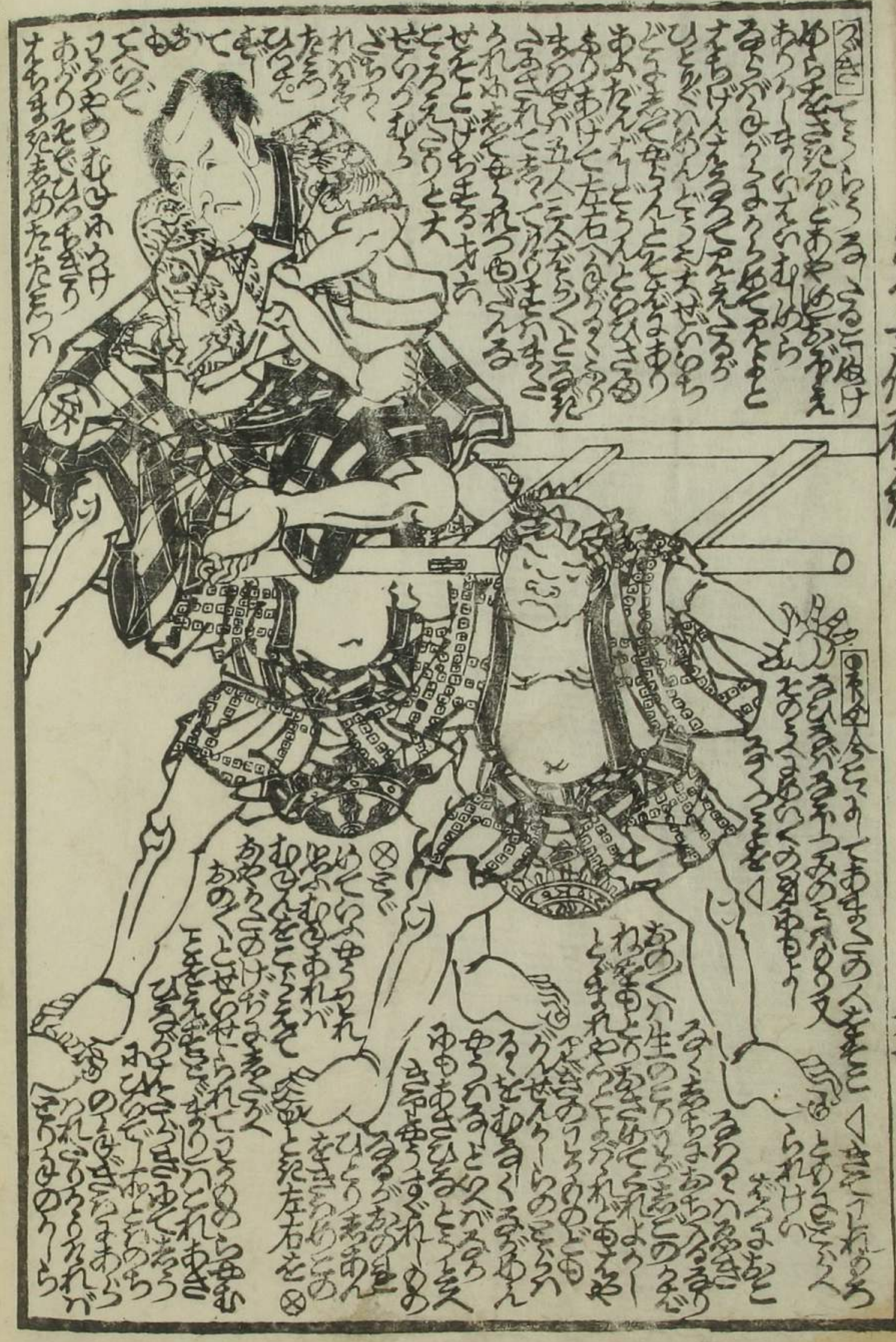
室戸女徳の初編

六六



女子の切腹

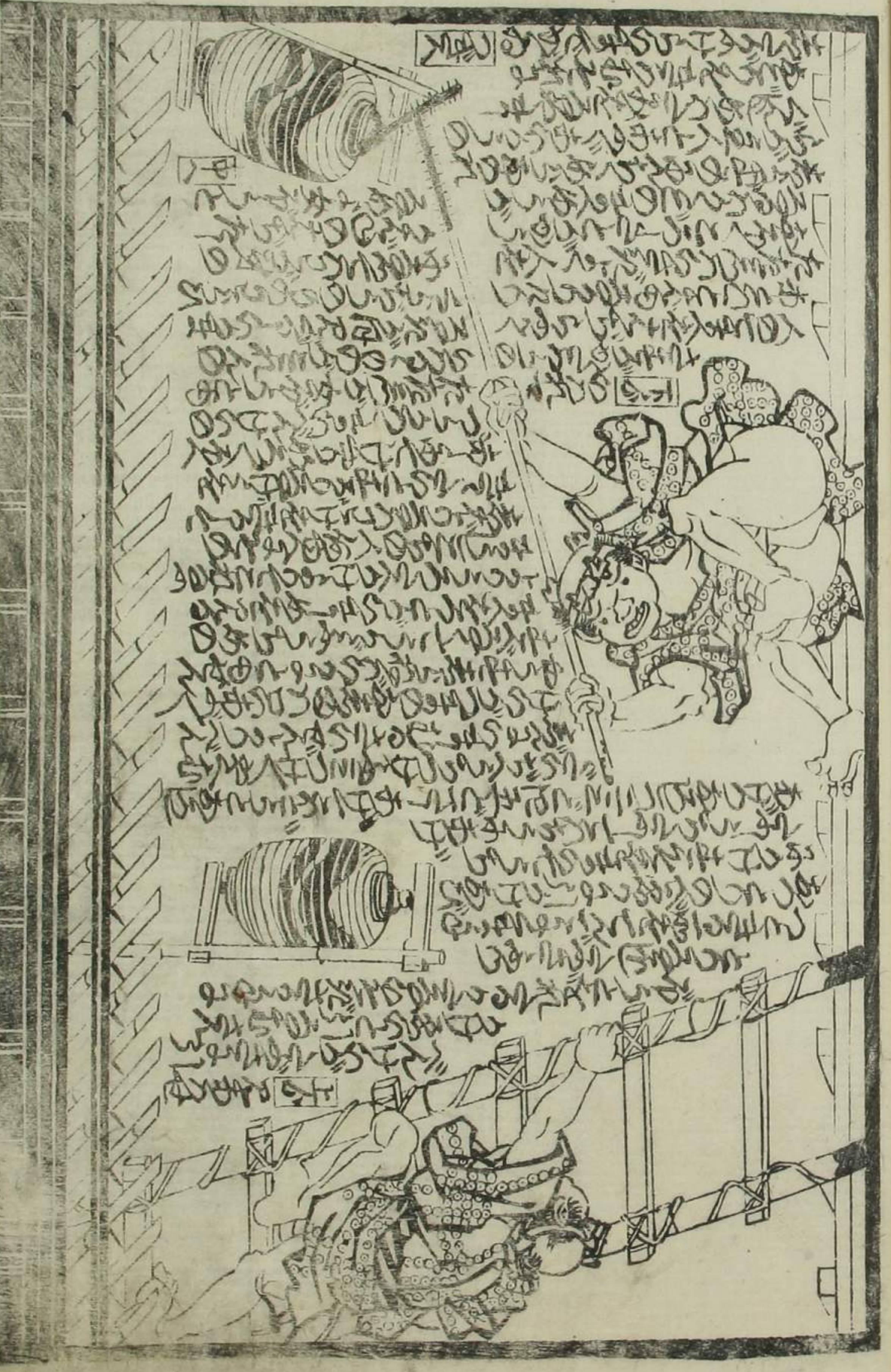
七



女子の切腹

七

七  
七



七  
七

七  
七



美艶の茶 美艶の茶

美艶の茶 美艶の茶 一包代早八分

はあろの茶 美艶の茶

日中... 香...

あろ... 香...

美艶の茶 一包代早八分

晴雨両天傘

大振七女五ト

右の丸... 坂本氏

あろ... 香...

あろ... 香...

あろ... 香...

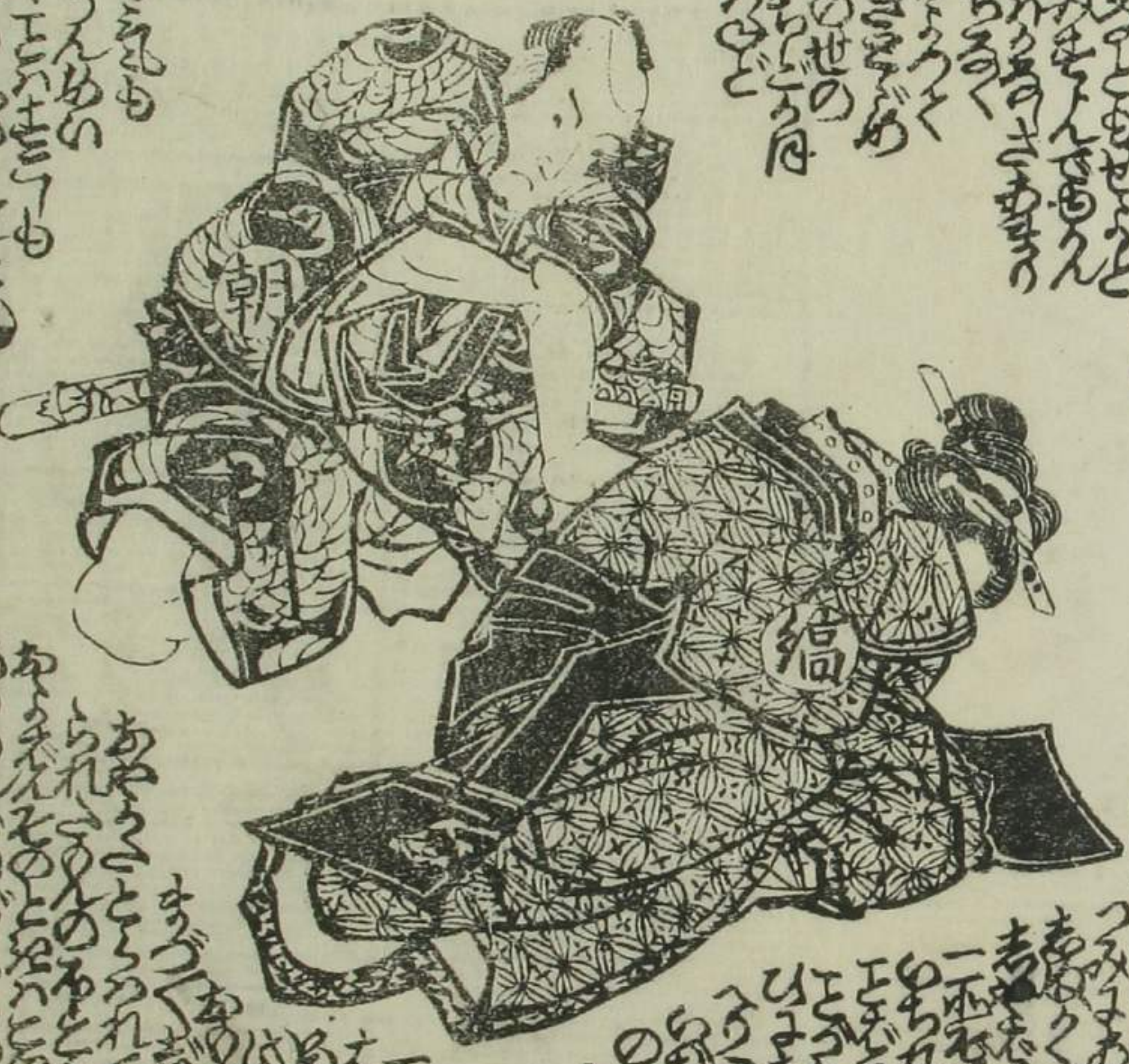
あろ... 香...

あろ... 香... 美艶の茶



美艶の茶

あろ... 香... 美艶の茶



あろ... 香... 美艶の茶

美艶の茶



風流女傳

七〇三



遠  
2378  
180<sub>2</sub>

七〇三

七〇三

遠  
2378  
1802

浅尾津分が達引むあり  
三吉彦吉が全盛のころ  
上冊

# 風流列女傳二編

墨川亭雪麿作 天保壬辰版

後素亭豊國画 山本榮久堂

一

潤明が菊子猷が竹林浦が梅茂叔が蓮の更へ陳白沙の木犀花を  
愛に譚友夏の紅葉を想ひ人各物に愛する其品一なる月花を愛する  
不着の自り雅韻を備へ錢財を愛するの其性鄙吝なる已を愛するを  
自惚と云ふ子と愛するを子煩悩と云ふ稱官小説の嗜好の探奇を愛する人との  
有然と可愛と云ふは原来利を害する已合巻の草冊子の飯の好物も  
三年讀み誦本学問終に戯作者の魔鬼小階で益を著し人小  
時の真に深くと我精神を費してあたし月日も空しく逝き大直る骸骨の哀も好  
か病飲因果で好飲已で己の氣が知れぬと嘆息はよく  
案の上の既し列女傳の二編成で故に此語を左端小題として序を換  
の也ヲヤで多ふ直目ごのめ。

天保三年壬辰正月新版 墨川亭雪麿誌

列女傳三編



金時が  
養孫

金平預吉

念佛組の乾親家

金時范兵衛

三吉の新造  
頼のせん  
絶つては...  
みまかえり...  
雪磨



白雨の...  
津國屋  
雪の下町人  
分左衛門  
金...  
ひと免千本の花...  
墨川亭

墨川亭

三村屋の...  
吉野  
人...





艶曲  
昨夜君何處  
莫是在平康  
君情不可隱  
君衣有別香  
河木田邦美

梅見  
それ  
廓の  
袖のうたり香  
墨川亭

愛甲郡司  
奸臣  
新屋茂物  
拘女郎吉野  
あれを度吉と云

川下町奇談

四



大磯局女郎  
桐屋金大夫

千代  
たの月さゆら  
男一足の履物  
先衣

雪上居

鶴組の首  
朝夷  
島兵衛

五

三

同  
今半若  
油那之助

勘三矢平  
深痕の生難を  
計く自殺を

同  
野寺鐘六

同  
野晒  
枯人



同  
冥途  
小八

弁慶が乾兒  
阿羅漢五百左門

同  
天狗紹八







一の末に...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...

川女集巻二

二



...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...

川女集巻二

三



五  
女  
作  
五  
分

二  
大  
馬  
舟  
一  
分



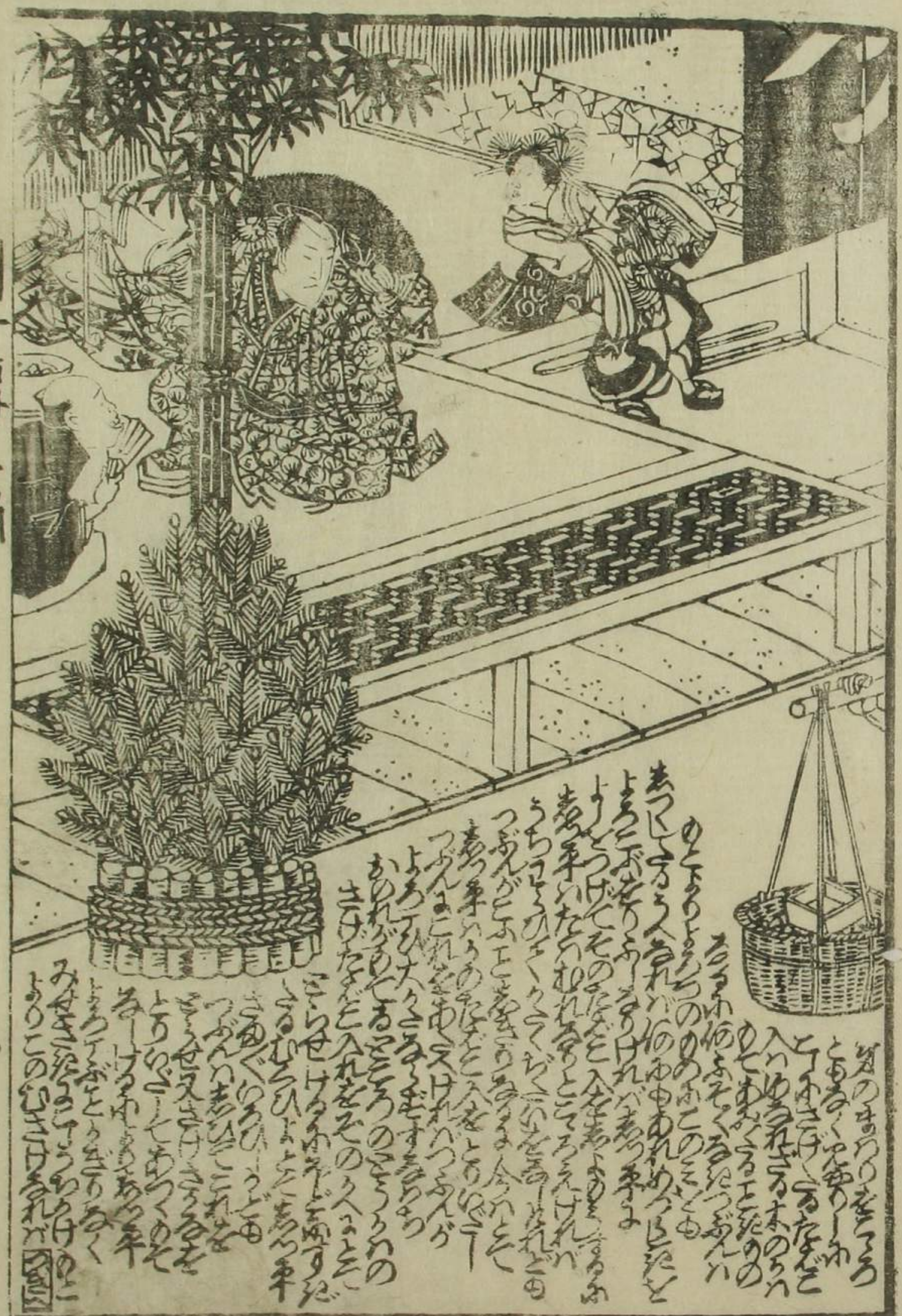
舟に乗りて... 舟に乗りて... 舟に乗りて...



舟に乗りて... 舟に乗りて... 舟に乗りて...

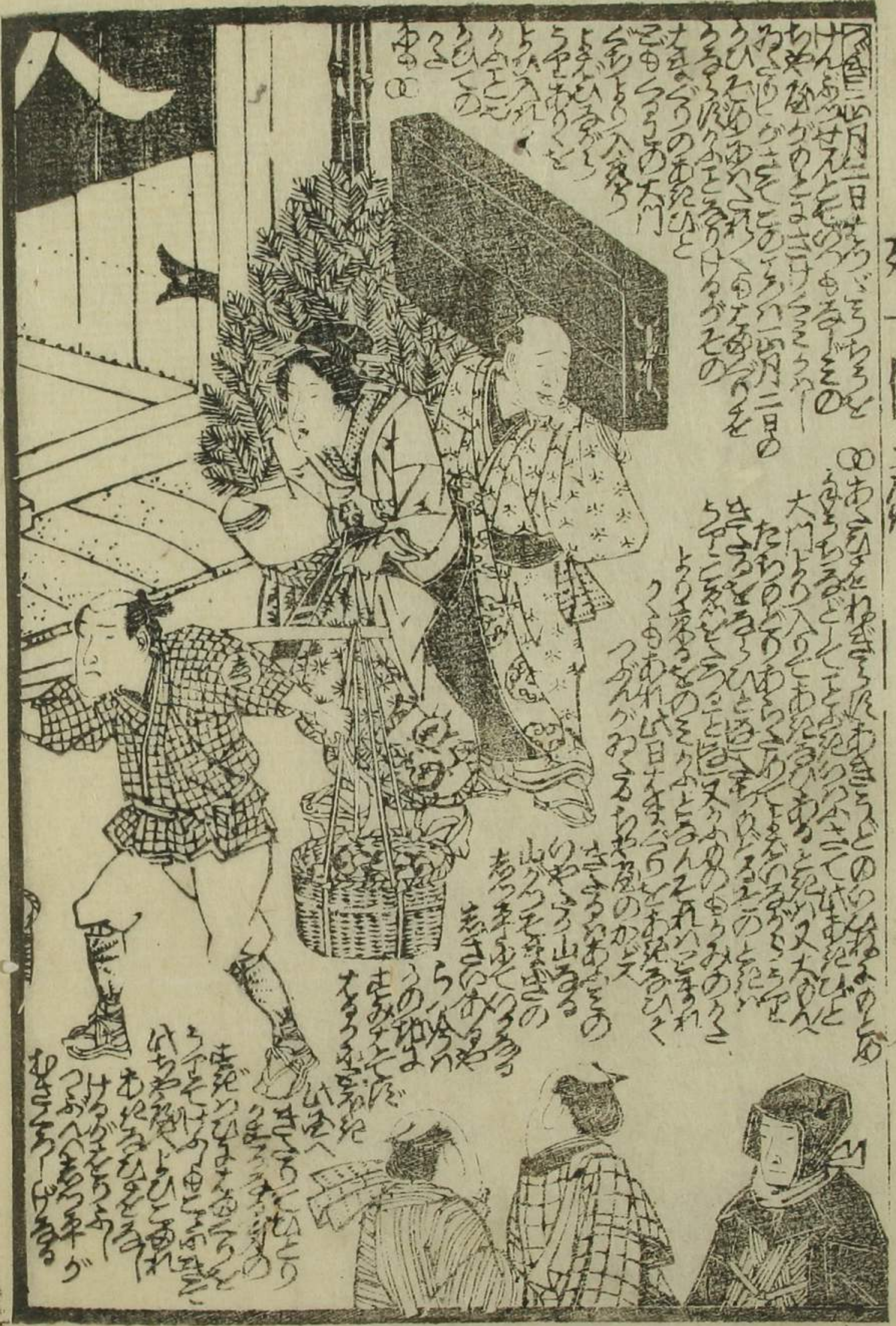


大浦守一巻



二五編

のこころのしるし...  
 おひさまのまはりの...  
 ようやく...  
 みるま...  
 よりこの...



二月二日...  
 大門口...  
 山を...  
 志...  
 ろの地...  
 大...





ついでとてあつたおの  
いふことありけり  
ついでとてあつたおの  
いふことありけり

あつたおの  
いふことありけり  
ついでとてあつたおの  
いふことありけり



あつたおの  
いふことありけり  
ついでとてあつたおの  
いふことありけり



あつたおの  
いふことありけり  
ついでとてあつたおの  
いふことありけり





とせられたり申すも... 川女東守三編 十三



とせられたり申すも... 死女傳之編 十二

つぎ月日と... けれすれどもあひと... けれすれどもあひと... けれすれどもあひと...



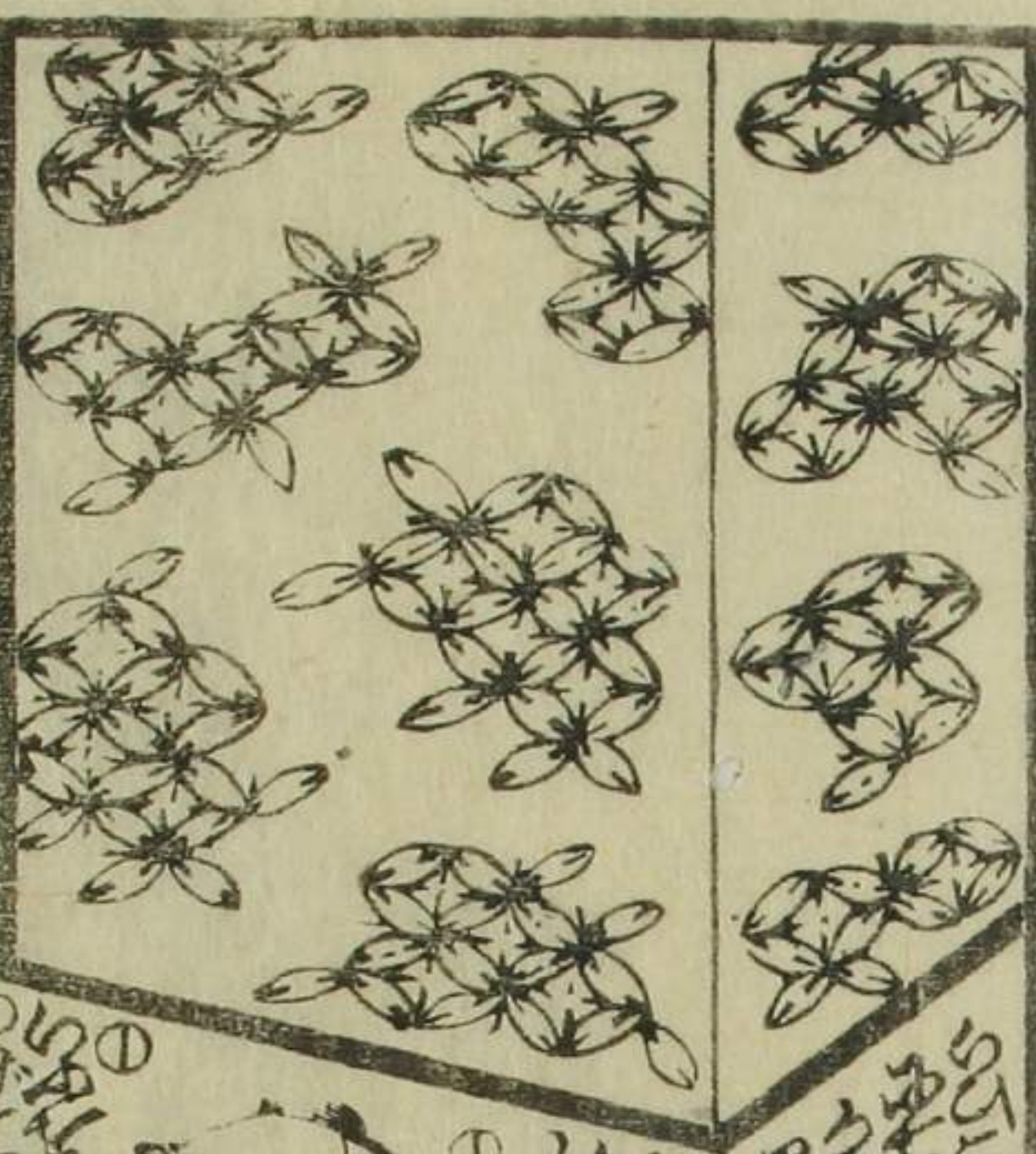
古今奇聞

かきくろとまひるをたぐりしられしは...  
あまの...  
いづれ...



あまの...  
いづれ...

かきくろとまひるをたぐりしられしは...  
あまの...  
いづれ...



古今奇聞

あまの...  
いづれ...



曲豆國画雪磨作

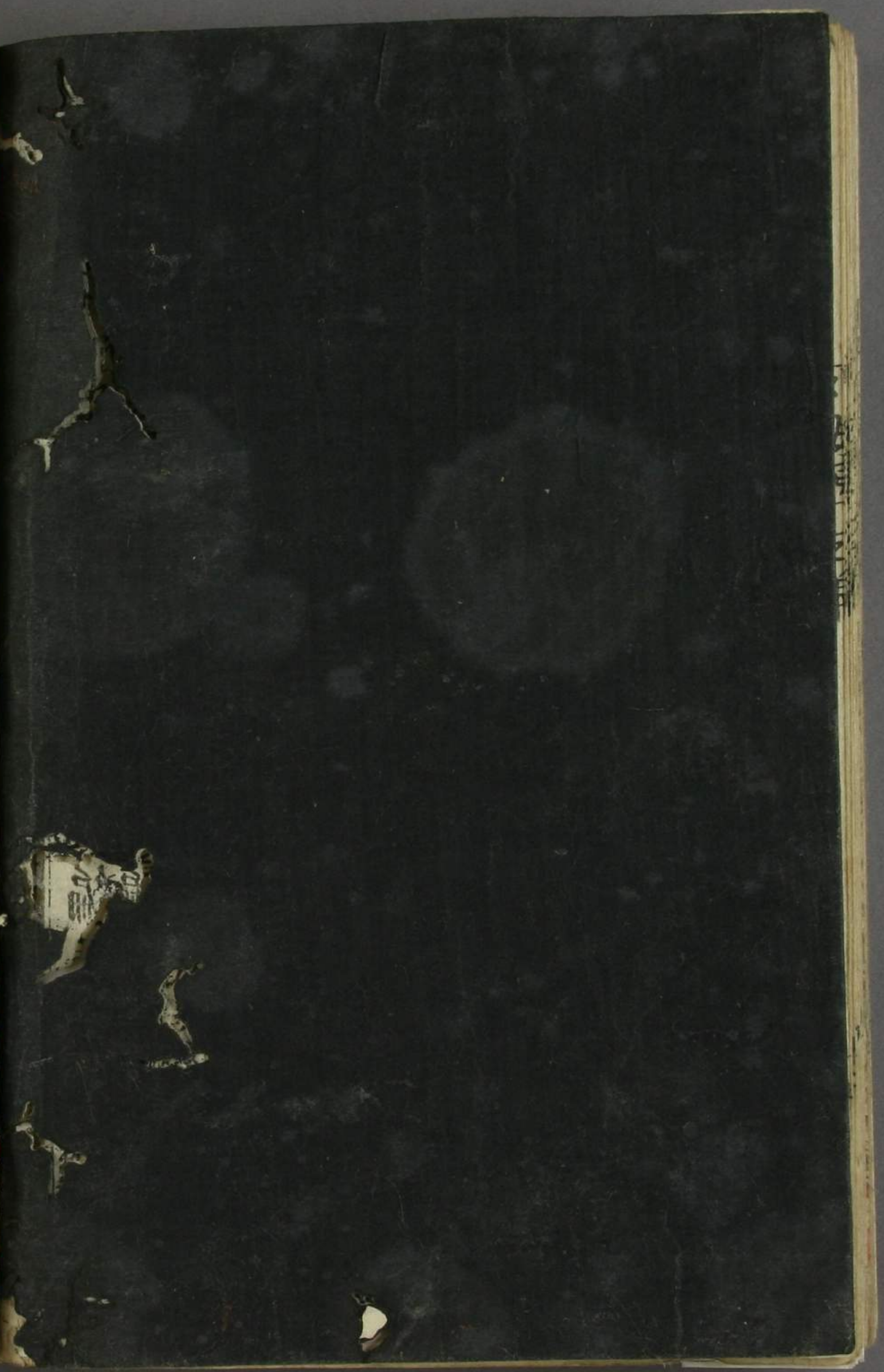


不破 歌川國貞画  
 名古屋 遠山鹿子 四編  
 先年より賣出 河原見れり 初編二編ハ揚屋の場  
 より山云が館の半小にて筆とどり今年あつたを  
 三編四編ハ名古屋かまきひの續より大津又平の住  
 家小至れば相かきとむ所のとりの程奉希い

小説 梅花扇 全八冊 前北齋 爲一翁画

か好まき方ものおんどの和名内のもその後朱一貴といふ下の人  
 六安との悪王とやらを名を扇の繪さしりるもこれとらんん漢字を  
 つく物知りありつく作のわきま狂言も浄瑠璃の中もさるるも  
 こころよく繪のめやうのめつり合せ合巻あさりいしりのもそのよみ

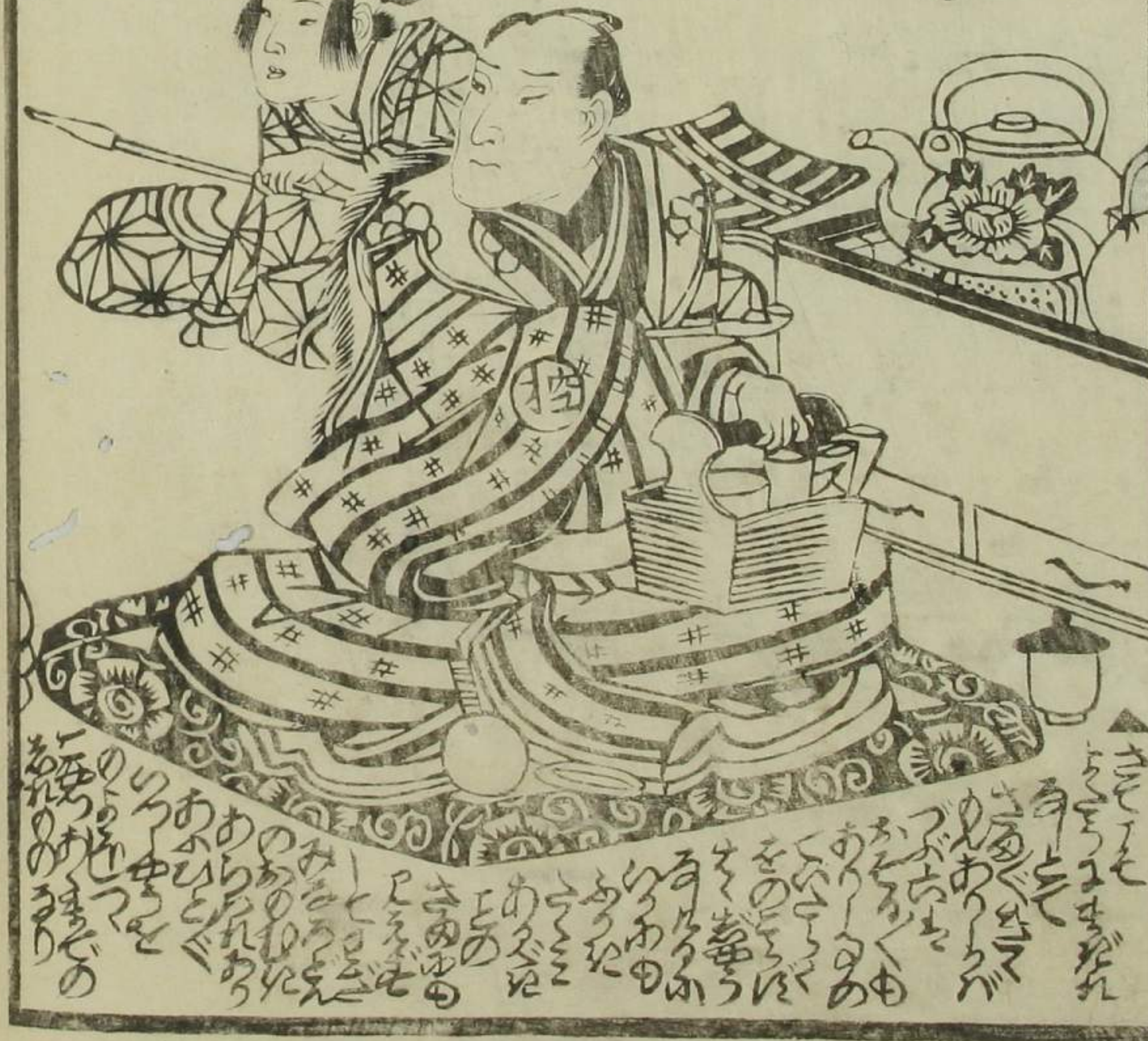
江戸より町あぢ橋角繪冊子向丸 山本屋平吉板







この世の事... 女傳三編の物語... 女傳三編の物語... 女傳三編の物語...



この世の事... 女傳三編の物語... 女傳三編の物語... 女傳三編の物語...

この世の事... 女傳三編の物語... 女傳三編の物語... 女傳三編の物語...



この世の事... 女傳三編の物語... 女傳三編の物語... 女傳三編の物語...



夫は死にたはりて、あつちへいぢつと  
 行つてしまふに、あつちへいぢつと  
 行つてしまふに、あつちへいぢつと  
 行つてしまふに、あつちへいぢつと  
 行つてしまふに、あつちへいぢつと  
 行つてしまふに、あつちへいぢつと  
 行つてしまふに、あつちへいぢつと  
 行つてしまふに、あつちへいぢつと  
 行つてしまふに、あつちへいぢつと

今日ついで  
 ありと申  
 されども  
 申しさう  
 らけさき  
 めんけん  
 さいせん  
 夫平も  
 ありと申  
 申しさう  
 らけさき  
 めんけん  
 さいせん



夫平が死にたはりて、あつちへいぢつと  
 行つてしまふに、あつちへいぢつと  
 行つてしまふに、あつちへいぢつと  
 行つてしまふに、あつちへいぢつと  
 行つてしまふに、あつちへいぢつと  
 行つてしまふに、あつちへいぢつと  
 行つてしまふに、あつちへいぢつと  
 行つてしまふに、あつちへいぢつと  
 行つてしまふに、あつちへいぢつと  
 行つてしまふに、あつちへいぢつと



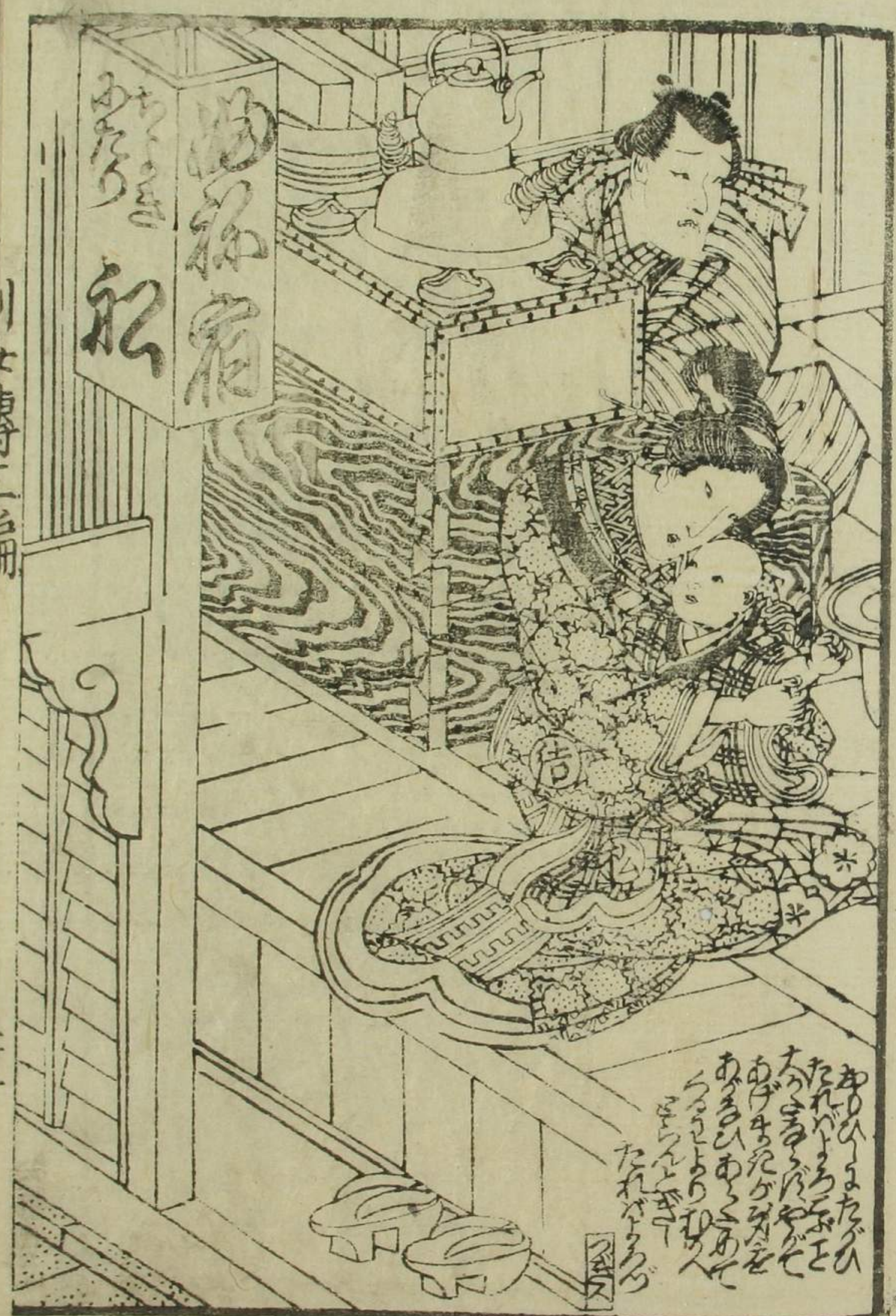












おひふまたがひ  
たれがらうと  
大なるるるたを  
あけかたを  
あきひあを  
つらひありたか  
たいがらう  
あきひあを

女傳三編



あきひあをのこ  
たれがらうと  
大なるるるたを  
あけかたを  
あきひあを  
つらひありたか  
たいがらう  
あきひあを

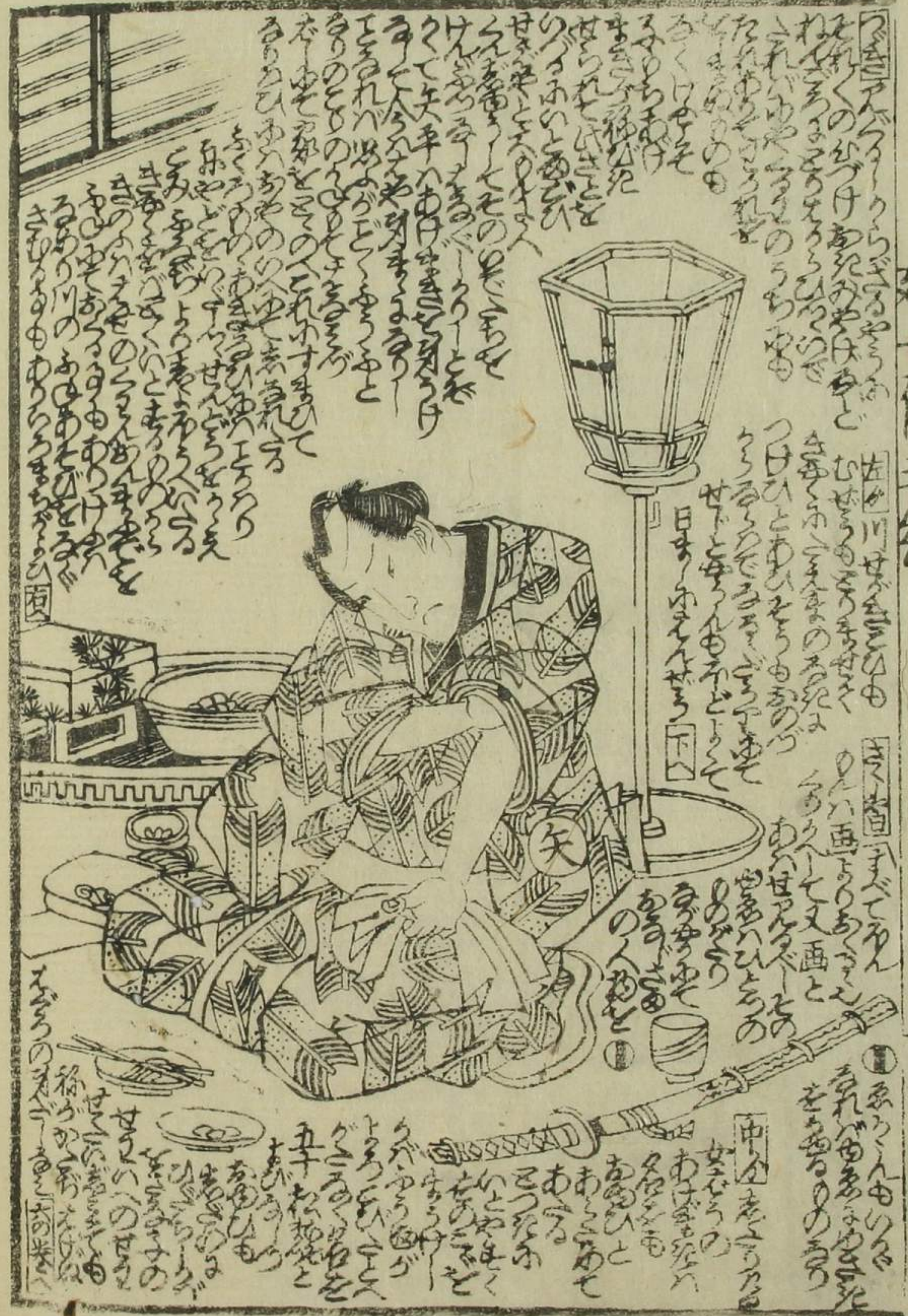
あきひあをのこ  
たれがらうと  
大なるるるたを  
あけかたを  
あきひあを  
つらひありたか  
たいがらう  
あきひあを

九四



川太夫守三郎

十一



五子傳五郎

十一



二六郎 下

七二



五七郎 三

七三









山天保三辰春灸新刻史相

<p>美艶仙女香 同断 香 坂本氏 美艶仙女香 同断 香 坂本氏</p>	<p>菊壽童 山煉庵京山作 香蝶樓國貞画</p>	<p>かぶの地三國志二編六冊 歌川豊国画</p>	<p>吾妻花外縁袴襦六冊 同画</p>	<p>囀戲場梗染全十冊 五渡亭國貞画</p>
<p>栄久堂 山本平吉板</p>	<p>國性爺 合戦全六冊 歌川國虎画</p>	<p>梅曆魁草紙全六冊 歌川国安画</p>	<p>春霞ゆ 乃廓全六冊 歌川国芳画</p>	<p>風流列女傳三編六冊 歌川豊国画</p>



筆工谷金川

歌川豊国画

墨坐川亭雪磨作



